

テーマ：『 自然や生命を大切にする理科・環境教育の実践 』

高根沢町立 西小学校

Tel. 028-675-7541 担当者： 金井 司



■実践内容：

本校は、台地の上に立地しており、周囲を住宅地に囲まれている。そのため、児童が学校でも地域でも、自然や生き物、特に水生生物に触れる機会が非常に少なく、理科の学習や環境教育での課題になっていた。そこで、理科や総合的な学習の時間、環境教育等で活用できるビオトープづくりを行った。

作業はPTAと本校児童が協力して行い、約10ヶ月をかけて完成した。地元高根沢町のクロメダカやオイカワ等の淡水魚を放流し、高根沢町周辺の池や小川を模した環境にした。5 学年理科の「メダカのたんじょう」では、野生のメダカとともに水中の微生物の観察を行うことができるようになった。

また、水生生物やビオトープにやってくる生物の観察のために、双眼実体顕微鏡とフィールドスコープを助成金を利用して購入した。

■実践成果：

ビオトープは昼休みになるたびに児童がやって来ては自然を体験する人気の場所となった。春にはオタマジャクシがカエルへと変態していく姿が観察でき、夏にはヤゴ等の水生昆虫を観察することができた。水生生物とのふれ合いの経験が少ない本校児童にとっては、素晴らしい体験になった。

理科の授業においても、野生のメダカが目に見えないくらい小さな生物を捕食することで生命を連続させていることに体験を通して気づくことができたなど、生命に直接触れて学習する大変貴重な機会を得ることができた。

自然と生物との直接的なふれ合いの機会が増えてきた結果、より一層自然や生命に対する興味・関心が高まり、大切にしようとする意識が育ってきている。

また、本校 PTA に「理科ボランティア」を設置し、ビオトープを使った環境教育やビオトープの整備・管理を行っていく予定である。

■実践ポイント：

自然や生命を大切にする意識を育てるためには、直接自然に触れる、見るといった五感を使った原体験が重要である。そのためには、十分な自然環境が必要であり、ビオトープをつくり自然の教育環境を整備することは大変大きな意義をもつと考える。